

第1号議案

SENID・2011年度事業活動実績報告

1. ヨード補給にカプセルの使用禁止
 - ・ ヨード補給のための昆布ミネラルカプセル（フジッコ製品）がネパールの国内事情で、使用禁止となる。
 - ・ 象皮病の予防接種による死亡事故（数人）が発生したことが背景にあり、外来の医薬品の新規使用は不許可となった。ただし食品はOK。
2. WHO神戸センターに諮問（2011.06.14）
 - ・ WHO健康開発総合研究センター渉外担当官 吉田久美子
フジッコ（株）奥平専務、小阪主任、SENID 熱田理事長
 - ・ 昆布カプセルが食品であること、薬品でないことを保証する立場にない
 - ・ ヨードがWHOの基準以内であれば、人体に悪影響はないとは公言してもよい。
 - ・ 第三者の分析資料を以ってネパール政府に進言する以外に方法はない。
3. 日本食品分析センターに分析依頼（2011.06.29）
 - ・ 昆布ミネラルカプセルが化学薬品でなく、食品であることを示すため、日本食品分析センターに栄養分析を依頼。この分析データを盾に、ネパール提携先の PHIDReC にネパール保健省と交渉してもらったが、使用許可が下りなかった。
 - ・ ヨード補給を前提としたプロジェクトの方向を余儀なくされた。（10月）
4. プロジェクトの方向転換
 - ・ プロジェクトの目的
妊婦及び新生児のヨードの尿検査（UIE）の導入により、ヨード欠乏状況を特定化し、ヨード欠乏の母子を中心にミーティングを開いて、ヨード添加精塩の摂取を勧める教育を行う。
 - ・ サンプル シンズウパルチョーク郡の200組の妊婦とその新生児
 - ・ 場所 チョウタラ病院
 - ・ 期間 2012年1月～6月
 - ・ 昨年度、ヨード欠乏症を特定化するためのスクリーニングをホルモンの血液検査を実験してみたが、尿中ヨードのUIE検査と血液検査の数値に相関が乏しく、今年はUIE検査一本に絞ってヨード欠乏症を特定化した。
 - ・ UIE検査の結果がタイミングよく速報ができれば、出産前の十分なヨード添加塩摂取で、子どものヨード欠乏の予防が出来るが、果たしてその機動的

対応は期待できるかどうかが今回の注目点である。

- ・ パッシブな側面では、新生児がIDDに罹患しないことが判明することで、母親の育児不安がなくなり、家庭が明るく活気が出てくる。
- ・ 新生児にIDDの罹患が判明すれば、母親への栄養教育を集中的に教育でき、教育する側にも説得性がでてくる。
- ・ 開始が遅かったので、レポートの完成は7月の予定。

5. 助成金の申請活動

- ・ 公益財団法人 大阪コミュニティ財団
- ・ 公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

6. 医療法人社団 紀洋会 岡本病院 岡本理事長に依頼

- ・ 2012年2月16日
- ・ フジッコ（株） 小阪主任 SENID 熱田理事長
- ・ ネパール・岩村病院出張時に ネパール要人と会見。
- ・ カプセル問題解決のキッカケづくりを依頼

7. フジッコ情報誌「ビーンズ」に募金チラシ折り込む（8月）

以上